

事業所職員向け 児童発達支援自己評価表

公表: 令和 4年3月28 日

事業所名 仙台市あおぞらホーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	1	カームダウンスペースなどを、現状でできる場を活用しながら取っている。	
	②	職員の配置数は適切である	3	5	介助が必要なお子さんがクラスに複数いる場合、その日の全員の出席状況を見て職員間でフォローができるよう連携を図っている。	最近では欠員が出たときになかなか欠員補充ができない。(採用をかけても申し込みがない)今回は仲介会社を通じて何とか人材確保ができたが、今後どのように欠員補充をしていけば、ハローワークだけでは難しいので迅速な欠員補充方法について当局と検討していく必要がある。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	1		子どもの受け入れ人数が多くなると、クラスを増やすがその部屋には子ども用トイレがないのでいずれトイレが付くとよい。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	0	清掃済みチェック表の作成と分担清掃の実施	
業務改善	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向を把握し、業務改善につなげている	9	0		
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	0		
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	0		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0	様々な学ぶ機会を作っている。非常勤職員があナビの場に参加しやすいような時間配分を考えて実施した。	研修の活かし方やその後の変化や向上した点について振り返りを実施する。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもの保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	7	2	職員が意見を出し合って作成できている。	保護者相談対応などの中でニーズの把握をしているが入園して間もなくの聞き取りでもう少し困り感や願いを聞き取り計画に反映させていく。 子どもの生涯を通した幼児期の支援について考えることができる機会や地域の子育て新機関での支援を知る機会を作っていく 保護者ニーズに関してしっかりと(保護者)と入れて記載していく。

	⑩ 個別支援計画には、具体的な支援内容が設定されている	9	0		
	⑪ 個別支援計画に沿った支援が行われている	9	0		クラス単位での振り返りをしっかり実施していく。
	⑫ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	9	0		
	⑬ 活動プログラムが固定化しないように工夫している	9	0	児の状況に合わせて新しいあそびをチームで話し合いながら取り入れている。	
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	9	0		
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	一人ひとりの子どもに対して焦点を当ててあそびを提供し見るべき視点を職員間で共有して保育に臨んでいる。	
	⑯ 支援開始後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	4	話し合うことを各自で意識している。新しく試みた支援についてはその日のうちに振り返りを行っている。	
	⑰ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0		
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	7	2		モニタリングの際に課題の設定について適正だったか振り返る。
関係...	⑲ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0		
	⑳ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	0		
	㉑ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	9	0	リハビリテーションが必要な子どもに関しては実際のリハビリテーションの場を見学するなどしてきた。	

機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	②②	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	9	0	病院との連携の中 児の姿の共有を 行ってきた。	
	②③	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0		卒園児訪問を通し、地域の子育て支援機関との情報共有、情報交換を積極的にアウトリーチしていくことで地域の保育がつながりのあるものにしていく。交換研修などを実施したい。
	②④	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				就学児は不在
	②⑤	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	2		
	②⑥	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	5		コロナ禍でなかなか交流ができないが、子どもと共に散歩をする時に、しっかりとあいさつをするなど地域の方々との交流を大切にしている。今後施設名が入った名札などをして散歩を試みる。
②⑦	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	日々のミーティングや個別にも保護者と話す機会を持っている。	保護者と共に子どもの姿を見ながら育ちについて伝える機会を作っていきたい。	

保護者等への説明責任等	⑳	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0		
	㉑	「個別支援」を示しながら支援の内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	9	0		
	㉒	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	1	クラスの中で、保護者が相談しやすいように窓口を明確にしている。又必要に応じて随時園長が対応をしている。	職員体制が整わず先送りになることがあった。今後次の実施日を明確にしあまり遅くなく実施できるようにする
	㉓	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	0	保護者会活動をバックアップし、活動や研修会などを実施している。	
	㉔	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0		親子通園だからこそ毎日保護者と顔を合わせることができる利点を活用してこれからも保護者の小さな変化に気づき声掛けや相談がしやすい場と雰囲気を作る。
	㉕	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0		
	㉖	個人情報の取り扱いに十分注意している	9	0		
	㉗	障害のある子どもや保護者との意見の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	口頭だけではなく、情報の可視化をし、お伝えしている。	

	③⑥	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	6		コロナ禍が落ち着いた際には地域の方々にオープンにできる見学会などを実施したい。
非常等の対応	③⑦	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	0	登米市不審者事件を受けて再度対応マニュアルを見直している。	今後マニュアルの見直しだけでなく、実践を繰り返していく。
	③⑧	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0		
	③⑨	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	9	0		
	④⑩	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	0	保護者からしっかりと対応を聞き取り支援をしている。(弁当なのでアレルギー食品は持参しない為)	
	④⑪	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0		
	④⑫	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	虐待防止研修を幼児施設合同で実施し、日々の支援や様々な考え方を知り学ぶ機会を作ってきた。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。